

診断と治療

前述の症状が見られた場合、この病気を疑うことが診断の第一歩です。腹部を入念に診察し、ソーセージのようなしこりが右脇腹に触れないかを調べます。血便がなくても浣腸を行うと血便が確認できます。超音波検査では肝臓・胆嚢の下方に大きな円形の特徴的な腫瘤像を確認することにより、診断を確定することができます。その他にも、腸管内の腸液の溜まりや腹水を認める場合には腸閉塞を起こしている可能性が高くなります。

レントゲンでは、おしりから造影剤を注入する注腸造影法を行うことで、特徴的なカニの爪の形をした像を描出することができれば、診断

は確定的です。また、これによって腸が元の位置に押し戻され、結果的に治療ができてしまうことがあります。

風邪症状の後に、おなかを痛がったり、ぐったりしたり、血便が見られた場合、腸重積症の疑いがあります。24時間以内に治療をしないと腸管が壊死に至り、手術により腸管の切除が必要になります。また、乳幼児に多い病気と申し上げましたが、まれに成人でもポリープやがんが原因となり、腸重積になることもあります。おとなの場合には検診などで大腸内視鏡検査を受け普段から健康に気をつけておくことが大切です。

最後のあいさつ

さて、私事、7年間当病院でお世話になりましたが、家庭の事情等により3月をもちまして、退職させて頂くことになりました。今回、私が書く最後の病院便りとなりますので、ご挨拶させていただきます。

蘇陽病院は広大な山都町のみならず、高森町、宮崎県からも夜間の救急患者様を受け入れております。地域の中核病院として、24時間体制の医療は必要なことであり、それにより救命できた患者様もたくさんおられます。しかし、私の退職により、常勤の医師は3人となります。昼間はなんとか熊大等からの非常勤医師が助けてくださることになりましたが、夜間帯は残った

3人の医師だけとなり、今まで以上に負担が大きくなります。(私の責任も大きいですが。)全国的なことではありますが、へき地では慢性的に医師不足の状態です。これからの地域医療は、住民と病院と行政が一緒になって守っていかねば立ち行かない時代となります。「病院を辞めるものが何を言うか」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、今後の蘇陽病院の存在、発展を願う者として書かせていただきました。ただ、私も微力ながら今後しばらくは非常勤医師として、尽力させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

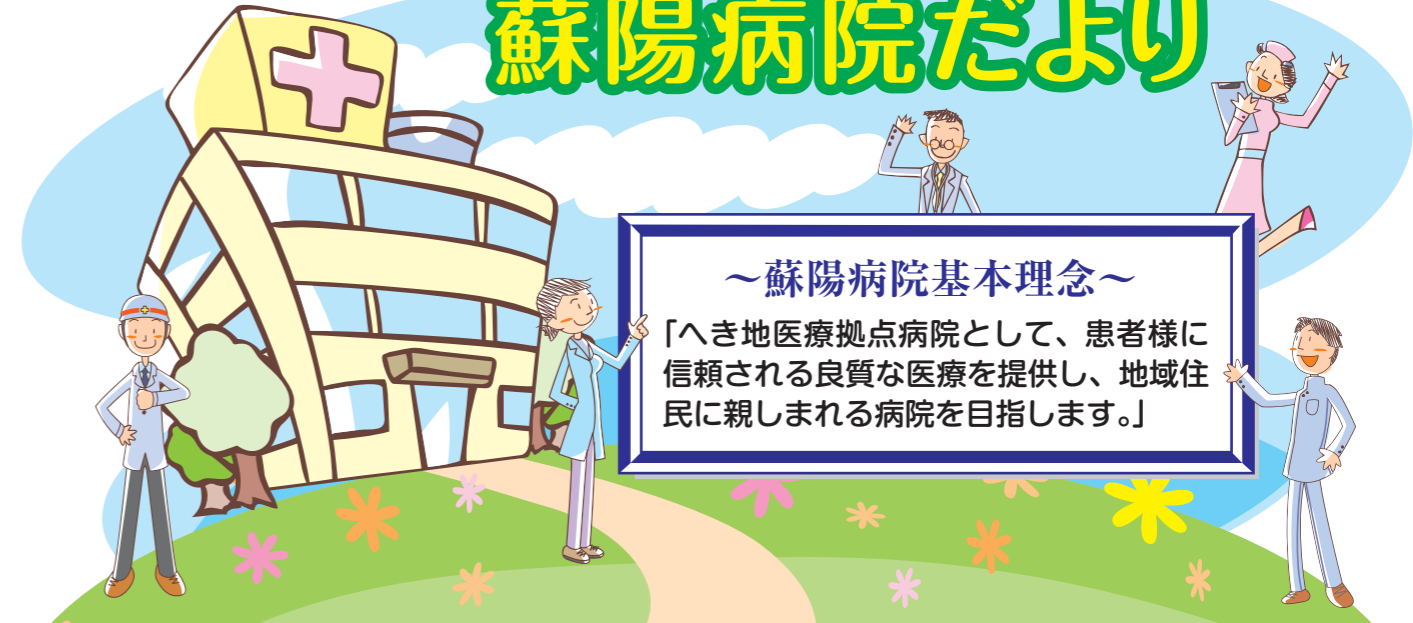
新蘇陽病院ここまでできました

いよいよ建物が立ち上がってきました。大きなクレーンで材料を投入し、現在、2階までの壁と柱と床の鉄筋・型枠を終えたところ。これから型枠にコンクリートを流し込んでいきます。



2階床の鉄筋・型枠組立 (平成24年3月29日撮影)

蘇陽病院だより



特集 知って得する 健康講座

第42集 腸重積症とは？

山都町立蘇陽病院 副院長 大城 一

あまり耳慣れない病気の名前かもしれませんが、生後6ヶ月から2歳くらいの乳幼児に比較的好くみられる疾患です。

どんな病気？

図のように、腸管が連続する腸管の中に入りこむことによって腸閉塞を起こす疾患です。原因として、小腸ポリープ、メッケル憩室、腸間膜リンパ節炎などが挙げられます。この病気は急性虫垂炎と並ぶ小児の代表的な急性腹症で、早期に診断し適切な治療をしないと怖い疾患です。腸重積は腸管のどの部分にも起こりえますが、回盲部(回腸と盲腸の移行部)で、

回腸の末端部分が結腸内に入り込む回腸結腸型、あるいは回腸盲腸型の頻度が最も高いのが特徴です。男女比は2:1といわれています。



症状

腸管が嵌入(かんにゅう:はまり込む)して、腹膜を刺激するので激しい腹痛を生じ、それまで元気だった赤ちゃんが突然火がついたように激しく泣いたり、不機嫌、嘔吐を起こします。顔面は蒼白となります。このような赤ちゃんの状態をいつもの泣き方とは違う、きつそうな顔つきをしていると母親がいうことがあります。2、3日前より風邪症状を認めることも多く、

腹痛発作は起きてはやむことを繰り返します。先進部の嵌入した腸管の血の巡りが悪くなるため、下血(粘血便)となります。浣腸を行うと、粘液に血液が混じったイチゴゼリーあるいはイチゴジャムのような便となります。診断や治療が遅れると、嘔吐(おうと)や腹水、脱水症状が起こり、命にかかわる場合もあります。